



那覇市立教育研究所

研究所だより



那覇市金城3-5-3

Tel 917-3441 Fax 857-8681

naha-c@naha-c.nahaken.okn.ed.jp

所長 田中 浩三



仮説検証授業づくり

所長 田中 浩三

て終了した。

本研究員の研究の進め方は、研究テーマに迫るために仮説を基に理論研究を深め、授業実践を通してその有効性を検証するという仮説検証による実践的研究である。このような研究過程の中で特に重視されていることは、テーマに迫るために「仮説（手立て）の設定」であり、教科等の「単元を通して仮説の有効性を検証」していくところにある。

仮説検証の授業では、場や手立て、目標等が仮説として具体的に位置づけられているため、計画の段階から焦点化して取り組み、実践に活かすことができるよさがある。

一方、授業実践では仮説の有無に問わらず、発問の仕方や学習意欲を高める言葉かけ、さらには支持的学級づくり等の工夫をすることが学習効果を高めるよい授業につながっていく。当然、研究員もよい授業づくりを工夫し、仮説の効果を高める授業を目指している。ところが、学級担任や教科担任を離れて研究を進める研究員にとって、仮説検証授業を進めるには、努力を要する場面が多くある。そこで、研究員が特に努力している様子を紹介する。

まず、授業づくりにおける学級・教科担任との連携である。研究に関する内容や方法、教材研究等、検証授業の事前・事中・事後を通してその都度学級を訪問し、説明・協力を求めている。

学級経営上の協力も然りである。

次に、子どもとのラボートづくりである。短期間に名前を覚えることはもちろん、機会あつ每に「コミュニケーションを図り、子どものよさを授業づくりに活かす術を求めている。このような努力の様子は、報告書等ではほとんど確認できないうことはあるが、検証授業づくりを進める上では大切にすべき基本的なこととして取り組んでいる。また、仮説の効果等が發揮されるためには、担任や子どもたちと「共に授業をつくる」姿勢も同時に求められている。二ヶ月後には研究員の研究報告が行われる。このような日で確認できない努力の積み重ねが研究成果に大きく貢献していると思う。

平成25年度

標準学力調査結果説明会

6月25日(火)に、自治会館2F会議室にて標準学力調査結果説明会が行われました。

教育相談や夏休み前の第三者面談、懇談会等で、活用して頂けるように、結果説明会では生徒の個人別帳票も配付致しました。分析結果は、教科、学級、学年、学校全体で活用して、対策を講じていただければと思います。

中学校1学年・2学年の国語・数学担当の先生方が参加しました。



100期 教育研究員 「指導案検討会」終了！



6/17(月) 下地, 喜屋武

6/18(火) 大城, 富山

又吉指導主事

単元を通して身につけさせたい力を明確にもち、授業のどの場面でどのような手立てをうち検証するのか、指導案を再検討して授業実践に繋げていきます。(喜屋武)

今回の検討会を終えて、自分が悩んでいる場所を所長や指導主事の先生方に質問されたので、自分の迷いは指導案に表れるのだと感じました。(大城)

「教育法規講座」

知っておきたい教育法規



6/14(金)、研究所会議室において、元那覇市立天妃小学校校長新里益弘氏を講師に「教育法規講座」が行われました。小中学校合わせて23名の参加がありました。

小論文を書く際、序論・本論・結論等各論の具体的構成まで話してもらいわかりやすく参考になりました。県が推進している資料(学校の努力点など)を改めて熟読する必要があると感じた。論文作成のポイント等がよく分かった。



「自由研究の進め方講座」

7/1(月)、研究所会議室において、本研究所 玉村かおり指導主事を講師に「自由研究の進め方講座」が行われました。小中学校合わせて21名の参加がありました。



今、実際に実行している授業から「はてな？」を発展・追究させられたらいいなあと思いました。中事前指導のポイントの絞り方や助言の与え方のポイントがとても参考になった。資料を持ち帰り職員で共有したい。

今月のお

理論編は「授業づくりのポイント」「学習指導案作成のポイント」のほか、「教材開発・教材研究の視点」「学習指導要領から授業実践へ」など展開。

実践編では(中略)3領域1言語事項に分けて授業の詳細事例を掲載。

「Q&A」編では教師の悩み解決のためのヒントを紹介。